

中国2 「読むこと（文学的文章）」に関する問題②

年 組 番 氏名

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

メロスは、単純な男であった。買い物や、背負ったままで、のそのそ王城に入っていた。たちまち彼は、巡邏じゆんらの警吏けいりに捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒さわぎが大きくなってしまった。メロスは、王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであったか。言え！」暴君ディオニスディオニスは静かに、けれども威厳をもって問いつめた。その王の顔は蒼白そうはくで、眉間みけんのしわは、刻み込まれたように深かった。「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑びんしょうした。「しかたのないやつじゃ。おまえには、わしの孤独がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきりたつて反駁はんぱくした。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民たみの忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが、正当の心がまえなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲かたまりの塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「なんのための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑ちやうしょうした。

「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

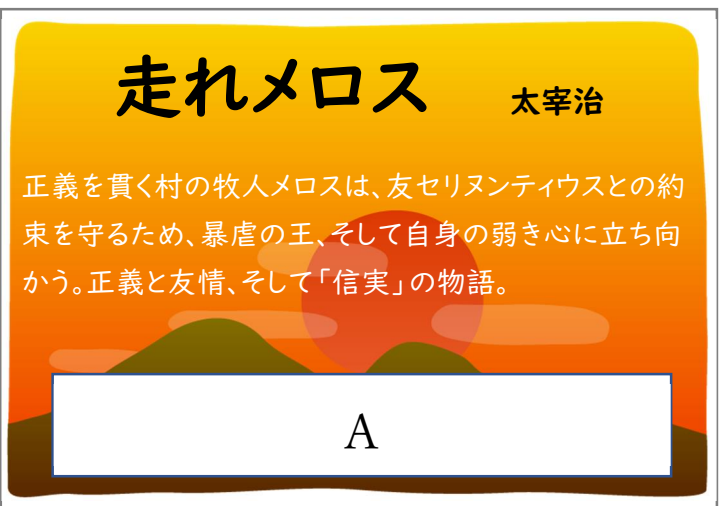
「黙れ、下賤げせんの者。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、いまに、はりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はりこうだ。①うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足



問三 「走れメロス」について作成した次のポップ作品中の空欄 A に、本文中の文章を引用する場合、あなたならこの本文中のどの部分を引用するか。引用する文章と、その文章を選んだ理由を、次の解答欄に書きなさい。

ポップ作品



〈引用文〉

Blank area for writing the citation text, with a vertical dashed line for alignment.

〈文章を選んだ理由〉

Blank area for writing the reason for selecting the text, with two vertical dashed lines for alignment.

中国2 「読むこと（文学的文章）」に関する問題②

解答

問一 人のはらわたの奥底が見え透いてならぬ。（十九字）

問二 逃がした小鳥が帰ってくる（十二字）

問三 《解答例》

〈引用文〉

町を暴君の手から救うのだ。

〈文章を選んだ理由〉

メロスの行動の目的とその決意がよく伝わるセリフであり、正義感がかり立てられる印象的な場面をよく表した文章であるから。

《評価のポイント》

問三 「文章を選んだ理由」が引用した文章の説明として適切であり、その引用による効果や、読み手に与える印象などについて説明できるとよい。